



よるんちょう 議会だより

第153号

2024年／令和6年11月28日

発行 与論町議会
編集 広報常任委員会
〒891-9301
鹿児島県大島郡与論町茶花1418-1
TEL 0997(97)3201
FAX 0997(97)4196



第56回町民体育大会（令和6年10月13日）

採択した陳情・発議

(P3)

与論町議会構成

(P4)

決算審査での主な質疑

(P5～P7)

決算審査意見の申し入れ

(P8)

一般質問

5人が登壇!町政を問う

(P9～P13)

9月
定例会

一般会計予算は 55億6383万円 (2億6902万円追加)

主な補正

物価高騰対策緊急支援給付金	5721万円
学校給食センター整備事業費	1019万円
学校給食センター建設基金費	1億9432万円
塵芥処理費	△1358万円

令和六年第三回定例会を九月二十七日から十月八日までの十二日間の日程で開いた。

九月二十七日は諸般の報告の後、議案審議を行い、条例13件、補正予算4件を原案の通り可決し、その他1件も可決した。その後、教育委員会委員の任命について同意し、諮問2件を適任と認めた。その後、令和5年度決算認定7件を決算審査特別委員会に付託した。

十月三日は一般質問が行われ、5名の議員が登壇し、町政全般について活発な議論を交わした。

十月八日は、最終本会議を開き、決算認定7件を認定し、補正予算1件を原案の通り可決した。その後、陳情1件を採択し、発議1件を原案の通り可決した。

一般会計補正予算

会計名	補正前	補正額	計
一般会計	52億9481万円	2億6902万円	55億6383万円

特別会計補正予算

会計名	補正前	補正額	計
国民健康保険特別会計	8億2311万円	66万円	8億2377万円
介護保険特別会計	6億8782万円	4818万円	7億3600万円
後期高齢者医療特別会計	8559万円	125万円	8684万円

国民健康保険特別会計・介護保険特別会計補正予算については、切り捨てにより合計額は一致しない。

採択した陳情・発議

◎令和7年度理科教育設備整備費等補助金予算計上についてのお願

陳情者

公益財団法人 日本理科教育振興協会
会長 大久保 昇

採択理由

本陳情は、小・中学校の理科教育環境改善のため、令和7年度理科教育整備予算の計上をお願いする陳情である。

理科教育では観察・実験機器の充実した理科室での授業が重要であり、使用できない古い機器や消耗品など、準備や片付けに支障がないよう積極的な予算措置により、「観察・実験こそ理科教育の基本」として、理科教育環境向上に努めることが必要であるとの結論に達し、全会一致で採択すべきと決定した。

令和7年度理科教育設備整備費等補助金予算計上についてのお願

提案理由

理科教育では「観察・実験」がすべての基本であり、これが十分実施できる理科教育環境整備が重要である。しかしながら、小・中学校の理科教育環境はまだ十分とは言えず、学校現場で最も困っていることに「観察・実験機器の不足」が挙げられており、地域格差も生じている。

については、理科教育環境向上のため、「令和7年度理科教育設備整備予算の計上」「観察実験に伴う消耗品について十分な予算措置」「理科観察実験が充分に行える場所（理科室）の整備と拡充」「小学校の理科実験支援員（PASEO）補助金予算の活用」について取り組んでもら

えるようお願いする。観察・実験こそ理科教育の基本である。小・中・高各学校理科教育環境向上のため、与論町及び与論町教育委員会に対し、「お願い」文書を提出し積極的な予算措置を要望する。



理科実験室

発議

理科教育においては「観察・実験」がすべての基本であり、「観察・実験」重視の視点から、これが十分実施できる理科教育環境整備に対する対応が重要であることが論じられています。学習指導要

領の中においても小中高共に「環境整備に十分配慮すること」という一文があります。

しかしながら、（公

社）日本理科教育振興協会の調査によると小中高各学校の理科教育環境はまだ十分とは言えず、学校現場で最も困っていること

が、12年連続で、小中高ともに「観察・実験機器の不足」と挙げられています。

積極的に理科教育設備整備費等補助金を取り込み観察実験機器の充実に着手している自治体とそうでない自治体との地域格差も生じています。

つきましては、理科教育環境向上のため、次の事項にご配慮賜りたく要望いたします。

記

1 令和7年度理科教育設備整備予算の計上

をお願いします。

（理科教育設備整備等補助金事業への積極的な取組をお願いします。）

2 観察実験に伴う消耗品について、十分な予算措置をお願いします。

3 理科観察実験が十分に行える場所（理科室）の整備と拡充に対してもご指導ください。

4 小学校の理科実験支援員（PASEO）補助金予算の活用をお願いします。

以上、決議しお願いを提出いたします。

令和6年10月8日

与論町長

田畑 克夫 殿

与論町教育長

中山 義和 殿

鹿児島県与論町議会



議 会 構 成

議 長	副 議 長	監 査 委 員
沖 野 一 雄	林 敏 治	遠 山 勝 也

総務厚生文教常任委員会

委 員 長	副 委 員 長	委 員		
高 田 豊 繁	吉 田 剛	大 田 英 勝	池 田 理 恵	沖 野 一 雄

環境経済建設常任委員会

委 員 長	副 委 員 長	委 員		
原 栄 徳	吉 田 勉	林 敏 治	遠 山 勝 也	川 内 恵 司

広報常任委員会

委 員 長	副 委 員 長	委 員		
大 田 英 勝	吉 田 剛	遠 山 勝 也	川 内 恵 司	吉 田 勉

議会運営委員会

委 員 長	副 委 員 長	委 員		
高 田 豊 繁	吉 田 勉	大 田 英 勝	林 敏 治	原 栄 徳

沖永良部与論地区広域事務組合議員

原 栄 徳	高 田 豊 繁	川 内 恵 司
-------	---------	---------

令和5年度 決算審査での主な質疑

決算審査特別委員会

一般会計

総務企画課・会計課

問 ふるさと納税について、新たに2つのポータルサイトを導入したとあるが、説明してもらいたい。

答 一つ目はJR東日本のポータルサイトを導入し、駅の構内にポスターを貼ることが可能になった。もう一つは旅先納税という電子商品券型のふるさと納税で、送料負担がなく、経費削減に繋がった。

問 中高生の香港語学研修に旅費助成をしているが、派遣人数と補助額はいくらか。

答 中高生が7名、引率が2名、現地ガイドが1名である。総事業費が約264万円、補助額が8割補助で210万円となっている。

問 沖永良部・与論地

区広域事務組合の負担金の算定はどのようになっているか。簡単に増額にならないよう取り組んでほしい。

答 基準財政需要額を基準に算定している。負担増にならないよう話し合っていく。



与論分遣所

問 防火水槽が足りないとこの声があるが、今後の整備をどのように考えているか。

答 設置基準は満たしているが、老朽化による補修も課題となっており、適切な配置と更新を行い、必要な所には設置していく。

税 務 課

問 自治公民館が実施するソフト事業に補助金を交付したとあるが、どのような内容か。

答 パソコン講習会の開催、講師を招聘した講演会や研修会等を実施している。

問 各種研修により職員の課税知識や徴収技術の向上に努めたとあるが、具体的には。

答 県が開催する徴税職員の事務研修等で、差押えや財産調査、滞納処分などの研修をして、技術向上に努めている。

問 たばこ税が毎年増えている。要因は値上げなのか。喫煙者の増えなのか。健康上良くないとも思うが。

答 税収増の要因はいろいろ考えられるが、健康被害とは切り離して考えたい。

問 不納欠損処理で消滅時効になったものが67件上がっているが払わない選択をした背景はどんなことか。

答 何もせず時効を迎えた訳ではない。最初に納税通知書の送付。次に督促状の送付。その後、電話や家に向いて話し合いをしている。これからも、粘り強く取り組んでいきたい。

問 町民税の未済額が年々増えている要因はどの辺にあるか。

答 新規滞納者の増で、ホテル業や建設業に多く、ほとんど転出しており、未済額増の要因となっている。

健康長寿課・保健センター・包括支援センター

問 与論町では子どもの出産に、県内外を問

わず、支給額や補助額は足りているか。

答 出産の費用、旅費の補助については、手出しはほとんど無いことを確認している。

問 訪問型母子支援員派遣事業とはどんな事業か。

答 6歳未満の子供のいる家庭に、ホームビジターというボランティアが週1回訪問し、家事や育児を一緒にする家庭訪問型子育て支援事業である。



保健センター

問 引きこもりやうつ病の高齢者が増えているが、どのように対処しているのか。

答 健診や医療受診もなく健康状態が把握できない高齢者を抽出し、実態把握のための訪問活動を始めていく。必要な方への支援に繋げたい。

問 妊婦・乳幼児相談件数が、昨年度より大幅に増えている要因は何か。

答 子ども子育て包括支援センターへの来場者もカウントしたため、実績数が増えた。

町民生活課

問 与論子ども園では預かり保育と一時保育をしているが、茶花子ども園ではしていないのか。

答 利用がなかっただけで、茶花子ども園でも実施している。

問 乳幼児期の食育は、生きる力は食べる力に直結するので、質

の良い食ができるよう援助してもらいたい。

答 幼少期の心と体を作る上で、食は非常に重要である。質の良い食材を選べるよう努めていきたい。

問 火葬場の改修工事はどのような内容か。

答 大規模改修で、主にコンクリートの爆裂改修と屋根の補修をした。



改修工事を終えた火葬場

問 火葬場の運営は、1人体制では病気の際など支障が出ると予想される。今後の対応を伺いたい。

答 今年中に募集ができなかった場合は、勤務体制、委託業務の在り方を見直し、役場職員の業務習得についても検討したい。

環境課

問 瓶の回収は袋に入れて綺麗な状態で出さないといけないが、そのまま資源ごみとして送られているのか。

答 専用コンテナで海上輸送し、処理を日本包装協会に委託して再資源化している。

問 焼却の時、九電付近で臭いがするという話を聞いた。今まで距離をおいた場所の検査を予算化して行った事はあるのか。

答 予算化での調査をした事はないと聞いている。匂いについては個人差もあるので確認できていない。焼却方法を職員にも徹底し、出来る限り環境に配慮していきたい。

商工観光課

問 ゆいパンタ（旧ゆいぬ体験館）の利用者数が減少しているが、どのような背景があるのか。

答 修学旅行が無くなったことも一因だが、体験料を含めた売上げはあまり減ってなく、中身が変わってきている印象である。今後委員会を立ち上げ、体験だけではなく様々な利用の在り方を含めて検討していく。



ゆいパンタ

問 デジタルマーケティング事業のPRで、インフルエンサーの方を起用していると

いう事だが、効果について伺いたい。

答 十五夜の魅力発信としてインスタライブを行い、比較的多くの視聴者数があった。今までにないリアルタイムでの発信等で、しっかりと届いている印象である。

問 作年のヨロンマラソンは久しぶりの大会で大変盛り上がった。好評だった花火や屋台村といった企画は今年もやるのか。

答 アンケートで、今年度もやってほしいという要望が非常に多かった。ランナーだけでなく、島の子どものためにも、花火を上げる予定をしている。

産業課・農業委員会

問 糞尿による悪臭の苦情が多く寄せられている。対策としてアースジェネターを導入し

ているが、なかなか普及しないのはなぜか。

答 現在2分の1助成だが、限られた予算の中で助成額の増加拡充を検討し、農家の経費圧縮かつ環境の改善に繋がる様にしたい。

問 トラップ調査で誘殺されているミバエについて、どのような種類が入っているのか。

答 ほとんどがミシジミバエという種類で、ごく稀にセグロウリミバエなど珍しい種類が誘殺される。奄美大島周辺で今回ミカンコミバエの誘殺が6月から7月にかけて報告があるが、本町では誘殺されていない。

問 学校教育の中でサングを折って移植の実験をさせるのは非常に問題だと考える。実証の仕方を検討してもらいたい。

答 現在、関西の大学と提携し、漁協でサンゴ礁の造成を図っている。サンゴを折って増殖していくという認識が無かったため、今後漁協とも相談しながら進めていく。

建設課・空港 管理事務所

問 麦屋漁港公園の遊具が好評だが、更に増やす計画はあるのか。

答 3歳から6歳用の遊具を空きスペースに新たに設置予定である。



赤崎公園

問 茶花漁港南防波堤の改良工事は、津波が来た場合、それが直接

導流堤になる可能性が高いが、考えを伺いたい。

答 専門家からも指摘があったので保留にしておき、さらに良い方法を検討していく。南中突堤の埋め戻しと、小型船を揚げるエプロンの打ち換え工事と、宇勝漁港のエプロンの打ち換えに予算を振り分けている。

問 住宅整備では、今後どのような計画があるのか。

答 来年度南国モータースの上の公園に、令和8年度から朝戸住宅、その後、東区住宅を整備する計画がある。東区の用地買収はこれからである。

耕地課

問 多面的機能支払交付金事業の作業面が低下しているとの指摘がある。活動の充実を指

導してもらいたい。

答 活動は各組織に任せているが、活発な良い事例を組織間の意見交換会で紹介する等、活性化を促していく。

問 赤土流出対策として、新たに赤土流出対策事業費の予算項目を作ってはどうか。

答 赤土流出がサンゴに影響しているとの指摘もある。項目の新設については、町長や財政担当とも相談しながら検討していきたい。

教育委員会

問 現在一人一台のタブレットが配られているが、故障や不具合への対応はどうなっているか。また、配布による子どもたちへの弊害は出ていないか。

答 当初学校サイドでは、いじめや見てはいけな物を見るときか、壊したりしないかとの

懸念もあったが、本町の場合は自由に使わせながら課題を解決していくという方針である。壊れたり故障も何台もあったが、誹謗中傷等の弊害の報告は今のところ出ていない。持ち帰り学習や授業の中でも使いこなしており、非常に良い傾向だと思っている。



図書館

問 図書館では「乳幼児からのあしぼんDAY」、「図書館の一年生招待」、「一日子ども図書館員」、「夏休み図書館講座」等、魅力ある図書館づくりに頑張っている様子が窺える。これからも積極的

に頑張ってもらいたい。

答 図書館では乳幼児からの読み聞かせなどの新しい取組も始めており、あしぼんDAYは7回の開催で19組の親子が参加した。それがきっかけで子供たちが溢れる明るい図書館になった。今年は大人向けの講座も計画するので、是非、議員にも参加してほしい。

問 ふるさと留学振興費で、3名の生徒が転入している。3名の学年と一人で来たのか、家族で来たのか。補助金の内訳はどうなっているのか伺いたい。

答 3名とも高校生で、3年が1名、1年が2名である。2名は母親と来ており、1名は孫留学である。生活費補助は3名とも月額3万円、家賃補助は半額補助で上限2万円と

なっている。孫留学の生徒は祖父母の家で住んでおり、家賃補助は出ていない。

特別会計

水道課

問 水質のことで石灰については永遠の問題と認識しており、令和13年度からしか施設を新しくできないという話だが、その間、できる対策などは無いのか。

答 水道水の硬度はもう少し下げることが可能だが、施設に負担がかかってしまう。現状、13年までの対策としては無いのだが、次に更新する時の為に新しい電気透析の方法を試験運転しているところである。

※紙面の都合により、質疑の掲載は一部となっている。

令和5年度決算審査意見の申し入れ

令和5年度決算審査の結果、町議会としての意見を集約し、次の通り議長から町長と教育長に申し入れを行った。

記

1 ふるさと納税については、寄付者や返礼品など、継続的な分析を行い、アフターサポートも含めた細やかな対策を行っていただきたい。また、地域おこしへの足掛かりとなる多くの情報が得られるものと考えてるので、それらを生かして地域産業の活性化に取り組んでいただくと共に、今後の本町における自主財源の強化対策として企業版や個人版ふるさと納税増額と事務態勢拡充を図ること。



町長への申し入れ

2 沖永良部与論地区広域事務組合負担金については、本町の消防体制の現状に鑑み、安易な負担金の増となることが無いよう取り組むと共に、防火水槽を始めとする各消火設備・機器類の整備については、町民の安心安全な生活を担保するものであり、効果的かつ計画的な整備を行うこと。



教育長への申し入れ

3 税は公平公正でなければならぬので、不納欠損、時効にならないよう留意し、個々の滞納者の実態・実情を把握し適切な措置を

4 出産や子育てに係る費用を始めとする、各種医療費等給付サービスについては、申請に係る領収証等の準備や手続きと事務担当の作業負担の簡素化が図られるよう要項改善等の必要性があるのではないかと思われる。給付を受けられるまでの手続きが簡素化されるよう国・県等の動向注視と自主的な改善対策を図ること。

5 畜産堆肥の対策は生活用水や悪臭被害に

も直結するので、今後もさらなる対策が必要不可欠であり、アースジェネター利用推進や堆肥センターの利活用を含めた総合的な対策を推進していただきたい。また、アボカド等の試験栽培の作物が新たな特産品・加工品となるよう引き続き検証と努力をすること。

6 慢性的な住宅不足解消のため、PFIを含めた公民連携方策を含め、関係機関との連携や情報交換を図り、効果的な住宅問題の解決に取り組んでいただきたい。

7 きれいで住みよい農村環境の維持のため、多面的機能支払交付金事業を積極的に活用し、各集落活動団体との連携強化を図っていただきたい。また、ギンネム類繁殖被害対

策として有効な雑木類刈払機器の調査研究も行いつつ、道排水法面や路肩等の適正管理を行い、各施設の安全利用環境整備をお願いしたい。

8 クリーンセンターは完成から8年を迎え、炉内の修繕や各修繕工事等経費の増大が懸念される。現在管理委託の受託先業者とも連携し、ゴミの受け入れに支障が無いよう取り組むこと。

9 世界自然遺産登録や沖縄北部の開発計画を見据え、沖縄からの誘客、特に姉妹盟約先である国頭村や沖縄北部との積極的な観光交流に努めること。観光地として整備された場所が魅力的な景観が保全されるように引き続き関係団体機関と連携すること。デジタル

マーケティングを活用した誘客も引き続き推進すること。

10 学校を始めとする各種教育施設は老朽化による対策が急務である。天井コンクリート剥離等の落下事故による怪我等が無いようしっかりと対策を講じると共に、今後の施設の整備計画についてもあらゆる方策を検討し、適切早期の対策を図ること。

11 老朽化した配水管や浄水施設など各施設更新に今後相当の費用がかかることが予想される。良い水の供給は生命の維持と安心した子育てに大変重要であり、今後も各種更新についてできる限り速やかな対策と、適正水質の維持、施設の計画的な整備に取り組むこと。

一般質問

5人の議員が登壇、町政を問う

移住・定住促進への取り組みは

町長 希望者が移住しやすい環境整備を進めていく。



川内恵司議員

移住・定住の促進

川内議員 奄振法の一部を改正する法案が可決成立し、本年4月1日から施行された。

この法目的に「移住の促進」の観点が追加され、交付金事業計画に記載できる事業として「移住の促進に資する事業」が追加されたが、与論町の取り組みについて伺いたい。

町長 指摘のように、今年度から新たに「移

住の促進に資する事業」が追加されたが、今年度、本町は事業化に至っていない。今後、奄振事業の積極的な活用を検討していく。

これまで実施した移住促進に資する取り組みとしては、空家改修事業、移住者住宅支援補助金事業（移住者向け住宅の改修費補助）、住宅整備支援補助金事業（賃貸住宅改修費補助）、特定地域づくり事業協同組合事業（移住者の雇用創出）、地域おこし協力隊事業（協力隊の定住）、ふるさと留学事業、定住促進住宅整備事業（サンセット江が島）、光ファイバー事業（リモート

ワーク推進）、企業誘致（雇用創出）や、各種観光事業・交流事業（来島機会の創出）等が挙げられる。

また、移住相談窓口を総務企画課に設置し、様々な相談に応じている。移住促進は、人口減少対策としてたいへん重要な政策であるので、魅力ある町づくりを基盤として、今後も移住希望者が移住しやすい環境整備を進めていく。

「与論町空家等対策協議会」の運営

川内議員 与論町の空家問題の解決には同協議会の運営が重要と思われるが、この運営状

況について伺いたい。

町長 令和3年9月に「与論町空家等対策協議会設置要綱」を施行し、令和4年6月には空家等の生活環境の保全など、空家等に関する対策を総合的かつ計画的に実施するための基本方針や具体的対策を定める「与論町空家等対策計



長い間放置されている空家

画」を策定している。「空家等対策協議会」は町長を会長として、弁護士・建築士・宅建士・町議会議員・自公連・鹿児島県土木部建築技監・与論幹部派出所・与論分遣所・役場関係課長を構成員とし、与論町空家等対策計画の改定や、町内における特定空家の認定及び措置について協議する組織である。

運営実績としては、令和3年11月の第1回目を含め、合計3回開催されている。第3回目（令和4年10月）には特定空家認定会議を開催し、本町において初となる特定空家の認定を行った。

今後も協議や認定の必要な事態が生じた場合、臨機応変に適宜・随時会議を開催し、適切な方策を実施するべく運営を行っていく。

子牛価格低迷や飼料高騰への対策は

町長 要望活動強化とコスト削減で所得向上を図る。



敷料化ラブセンター

高田議員 子牛価格の低迷や飼料・肥料価格高騰に対する国等への陳情・要望活動展開と今後の対策への町長の考えを伺いたい。

町長 県や奄美群島各自治体と一体となった国への働きかけ、特に鹿児島県選出国会議員への積極的な要望活動の展開が必要である。



高田豊繁議員

畜産業不振への対策

徹底的なコスト削減と、優良素牛の導入や畜舎環境整備等による良質な子牛生産を推進し、農家所得の向上を図っていく。

また、本町の限られた農地の有効利用のため、耕畜連携をなお一層推進し、さとうきび、園芸、畜産等、本町の地域特性を活かした農業が効率よく、生産性が上げられるよう、有益な農地利用を進めていく。

南三島の連携体制構築

高田議員 徳之島・沖永良部島・与論島の南三島が連携し、農業振興や社会インフラ等各种振興対策を推進する考えはないか。

町長 南三島は、古くから歴史や文化などの繋がりが深く、地理的条件や社会的条件が近いので、本年7月に発足した「南三島地域振

興協議会」を通じ、より緊密に各種振興策を推進していきたい。

子育て支援体制の拡充

高田議員 少子化子育て政策は町長のマニフェストの主要骨子である。島外出産支援や子供医療費、保育料、給食費等について、現行制度の拡充を図る考えはないか。

町長 島外出産支援は出産前後の交通費や宿泊費の大部分を補填する助成金があり、保育料は令和元年度より一部無償化、子ども医療費は今年度より無償化を実現した。子育て世帯の負担軽減を順次図っており、こども園の給食費は無償化の検討段階にある。

高田議員 職場内における職員の育児等に対する理解と特休制度等の拡充が必要だが、町

長の考えを伺いたい。

町長 役場内でも、子育て中の職員が子育てしやすい環境づくりに努め、職員の育児等に係る特別休暇制度の拡充を検討していく。

若者定住化促進用の民間資金活用型住宅整備制度の構築と実施

高田議員 本町の住宅不足は深刻であるが、公営住宅整備と並行して民間資金活用型住宅の整備が急務と考える。条例制定や事業希望者との意見交換を図り、早期実行する考えはないか。

町長 令和5年3月議会で与論町営単独住宅条例を制定した。また、「与論町住宅官民連携可能性調査」も実施しており、住環境問題の解消に向けた方策を全方位的に検討する。

ふるさと納税制度

推進強化対策

高田議員 町の財政力強化や各種政策推進、6次産業振興の上からも個人版・企業版ふるさと納税増高対策が喫緊の課題だが、町長の考えを伺いたい。

町長 本町の魅力を理解してもらい寄付に繋げる工夫や魅力的な返礼品の開発に努め、個人版ふるさと納税の強化を図る。また、企業版ふるさと納税は、現在、地域再生計画を策定し国に認定の申請を行っており、本年11月中旬からの受入れ開始を予定している。地域再生計画は、第2期与論町総合戦略をベースに策定しており、「島内外の活発な交流の創出」、「安心して暮らせる多様な居住環境の創出」、「町民が力を合わせて生きがいづくりに取り組む」の3つを基本目標に掲げている。

持続可能な観光地づくりどう進める

町長 第三者認証取得支援や法定外目的税の導入を進める。



池田理恵議員

持続可能な観光地づくり

池田議員 先日、与論町、ヨロン島観光協会、日本航空、日本エア・コミュニケーションズの4者が、持続的な観光推進に向け、契約を果たし、GSTCに基づいた観光地づくりを目指していく方針が明らかになったが、有効期限である2027年までにどのような観光地づくりを推進していくのか考えを伺いたい。

町長 本町は2021年度より全国8市町村と連携し、持続可能な観光地域づくりに取り組み、世界の持続可

能な観光地「トップ100選」に二度選出された。他方、日本航空は国際基準に基づく持続可能な観光に関する地域支援を発表し、去る9月4日、本町と覚書をかわした。

これに基づき、宿泊施設の第三者認証の取得支援や観光事業者への持続可能な取り組みの普及、旅行商品の造成販売による「責任ある旅行者」の誘客のため、法定外目的税等の新しい安定財源の確保を進める。

池田議員 環境や社会の持続可能性に配慮した「エシカル」という考え方で、文化・自然・特産品などを活用した地域ブランドとしての持続可能な観光地経営に取り組む考えはないか伺いたい。

町長 先人から引き継がれた島の自然環境や文化等の価値を観光にも活用することで、新たな経済価値を創出するとともに、その保全・継承に繋げ、特産品開発や地産地消の推進に取り組んでいく。

島の将来を担う子どもたち

池田議員 ゆんぬ学海洋教育では研究学習を通して、未来社会を主体的かつ協同的に切り拓くために必要な資質・能力「島だちの力」を身に付けていくための学びを推進しているが、この目的を達成する為の指導者への育成はどのように行われているか伺いたい。

町長 今年度は4月に高校教員を対象にマリン体験、夏休み期間中に海を楽しむための講

話とSUPやシュノーケル体験、三線教室を計画した。天候に恵まれずSUPやシュノーケル体験は中止となったが、三線教室には十九名が参加している。この他6月の海洋教育魅力化シンポジウムや十一月の海洋教育部会後の講演会で、希望教員がその意義や進め方について学んでいる。

池田議員 学習者が自主的に学ぶ教育環境づくりの一つとして、現在の宿題のあり方はどのように活かされているのか現状を伺いたい。

町長 家庭での学習習慣の定着を意識し、漢字やドリル、プリントを学年に応じた量として、また、授業の進捗に合わせて適宜課題と

して出している。

子育て支援

池田議員 子育て世代を含む各家庭に対し、生活用品（食料、衣類、学習用品等）をはじめとする直接的な物資支援制度の導入又は、既存制度拡充について考えを伺いたい。



元気に遊ぶ子ども達

町長 未就学児の物資支援は、きめ細かな支援が困難なため、こども園等で国の助成制度等を活用した保育サービスを充実させることで、より良い子育て支援が提供できるよう取り組む。

地震や津波への防災体制の強化を図れ

町長 様々な災害を想定した防災体制の整備を図る。

防災体制の強化



吉田 勉議員

吉田議員 南海トラフで巨大地震が発生した場合、震源となりうる場所が広いため、東側と西側で別々に地震が起き、それが時間差で連動して巨大地震を引き起こす可能性が相対的に高まっているとの発表があったが、私たちの島の周囲でも連動した巨大地震や巨大津波が発生する可能性は高いと想定される。島の中心から東西南北に活断層があり大きな地震が発生すると、高台への避難道路が遮断される可能性も高いと想定される。再度、防災体制の見直しと、危機

感を持って「命を守る行動ができる準備」を町民に周知を図る必要があると感じるが、見解を伺いたい。

町長 巨大地震によって本町の東西南北に走っている断層が動き高台へ通じる道路が寸断され、その後間もなく巨大津波が押し寄せて来て、重大な被害がでるというケースは、想定しておかなければならない。被害を最小限に抑えるために、危機感を共有し、日頃からの備えや訓練が必要であると認識している。巨大地震や津波はいつ来るか分からない。町民一人一人が災害が起きた時に「自分の命を守る行動」が取れるよう、日頃から災害への備えを呼び掛け、様々な災害を想定した防災体制の整備を図る。

吉田議員 自然災害や様々な有事が発生した場合、最前線で活動する消防団の組織強化と団員の待遇改善を図る必要があると感じるが、見解を伺いたい。

町長 消防団は地域防災の要であり、自然災害や有事の際に重要な役割を果たしている。消防団の組織強化については、現在、団員数が定数に満たない状況であり、若い世代や女性の加入促進を図っている。また、消防力強化のための各種研修会への積極的な参加支援や、団員の処遇改善も、年額報酬や出勤報酬全般について、類似団体を参考に適切な報酬額を設定していく。

サンゴの白化現象

吉田議員 温暖化に伴う異常的な水温の上昇が続く、島の周囲全体

にサンゴの白化が進み、再生が厳しい状況にあるが、現状を映像に残し今後の研究資料として保存したり、島内外へ発信する必要があると感じるが見解を伺いたい。



サンゴの白化状況

町長 「NPO法人海の再生ネットワークよろん」と「喜界島サンゴ礁科学研究所」が共同で島内のサンゴ調査をおこなう予定である。サンゴ礁の状況について最新の情報を共有し、町内の関係機関と連携しながら、定期的なモニタリング調査を実施し、得られた写真や映像を、貴重な資料として適切に保存し情報発信していく。

気象異常時における物流対策

吉田議員 荒天による船舶の抜港・条件付き運航の際の生活物資や生鮮食品などの供給は、島民の生活に大きく影響する問題であるが、今後どのような対策で取り組むのか伺いたい。

町長 港内状況の事前把握に寄与するライブカメラの設置や県による風向風速計の設置。損耗した防舷材の更新や岸壁嵩上げ等の施設整備に加え、商工会と連携した輸送環境の強化や島内での備蓄環境の強化に向けた各種整備の検討。また、町内外の事業者や関係機関と連携し、物流環境の改善や効果的な備蓄体制の整備に取り組む。

サッカー場人工芝の整備を急げ

町長 予算不足を確保し速やかに整備する。

施設の維持管理と有効活用



大田英勝議員

大田議員 ゆいランド

サッカー場の人工芝が整備後年数が経ち、競技や練習の際滑って危険な状況にあると聞いた。実際に滑って怪我をした選手も出ているとのことである。そこで、早期に対策を図る必要があると考えるが、教育長の見解を伺いたい。

教育長 多目的運動広

場ゆいLANDについては、スポーツ振興・健康増進を目的とし、平成29年度の供用開始から島内外の多くの

方々が利用している。指摘のとおり、人工芝については、経年使用に伴う消耗が確認できる状況にあるため、今年度の当初予算に修繕費を計上しているが、発注のため再度見積りを徴収し確認を行ったところ、材料の運搬費



人工芝の整備を待つサッカー場

用や緩衝材等の資材高騰の影響による予算不足が判明したため、本定例会に増額の補正予

算を計上している。修繕に係る諸手続きを速やかに進めるとともに、今後も安心安全な施設で多くの方々に利用してもらえよう努めていく。

大田議員 多目的屋内

運動場1階の和室や2階の部屋は、クーラーがないため夏場の利用が少ないとのことである。クーラーを整備することで、1階、2階ともに各段に有効活用が増えると考え。この際、前向きに整備を検討する考えはないか伺いたい。

教育長 多目的屋内運

動場は、主に各種連盟や同好会の活動、関連する大会や行事を行う際に利用されている。当該施設は、以前役場の仮庁舎が配置されていた際に、入口の事務所を宿直室として活用

するためにクーラーが整備されている。今回指摘された整備については、連盟などの各種団体へ確認を行ったところ、クーラー整備のニーズはあまり高くない状況だったが、施設の有効活用については今後も取り組んでいかなければならない課題として捉えているので、今後も各種団体や施設管理を行っているヨロНСCとも協議・検討を行っていく。

空港滑走路の南側隣接道路の整備

大田議員 空港南側隣

接道路は凸凹がひどく、軽自動車は通ることにも事欠く状況にある。先般、与論空港では軽飛行機の事故も発生している。このような事態が万が一南側道路周辺で起きた場合、

その対応にも大きな支障が出ると考える。早急に整備すべきと考え、町長の見解を伺いたい。

町長 空港滑走路南側

に隣接する道路については、当該路線の用地の一部に鹿児島県の名義や登記困難とみられる用地も含まれていることから、鹿児島県や関係者との調整が困難であり、未だ整備に着手できていない。

指摘のとおり、当該路線の利用者の安全な通行環境の確保は重要であると認識している。

今後の対応としては、多面的交付金を活用し集落組織による当該路線の路面補修及び沿道の草木除去を引き続き進めるとともに、路面整備について各関係先との協議・検討を実施していく。

わたしもひとこと



大倉 秀心氏

「ルーツ」

4月に与論高校に赴任して以来、繰り返し講話や校長通信などの配布物で、「与論島にルーツを持つ自分に誇りを持って」と生徒に伝えている。

先日、ある教育関連企業の人と話していたときにも、「与論島出身なんて、なりたくてもなれないんですよね。だから羨ましいん

プロフィール
・氏名 大倉 秀心
・住所 与論町茶花
・職業 与論高等学校長

ですよ」と言われ、与論で生まれたり育ったりしていること自体が、それだけで立派な個性であるということを感じて実感した。その個性をこのように表現・発揮するかを生徒には普段から考えてもらいたいという思いから、与論島にルーツを持つことの貴重さ・有難さを次のような趣旨で生徒に伝えている。



台湾修学旅行

「ルーツ」とは、自分や祖先が生まれ育った土地に対する感情的な結びつき、心の拠り所みたいな感覚といっ

てもいいでしょう。この単語のもととの意味は植物の「根っこ」ですから、生徒の皆さんが本校を卒業した後、どこで生活することになっても、「根っこ」は与論島にあるという意識を常に持つ大人に成長してほしいということなのです。他の地域とは明確に異なる自然や文化が色濃く残る、一島に校舎しかないこの与論高校でしか受けられない教育コンテンツをフルに活用して、「日本人」というよりはむしろ「与論人」としての自我を確立してほしいと思います。都会より地方が、集団より個が何をするのかが問われる時代になっていきます。そういう意味では、与論高校の生徒には追い風が吹いていると言ってもいいでしょう。小規模校であることを逆手にとり、大規模校の生徒が経験できない、与論だからできること、与論

でしかできないことを前のめりの姿勢で経験して、自分たちの存在価値を高めてほしいのです。本校は生徒個々がオンラインワンの存在になりやすい学校なのだということを忘れな

が、両親は喜界島出身だが、私は東京で生まれ、大学卒業まで生活した。そして1991年4月、鹿児島県で教師生活をスタートさせた。バブル全盛の時代、大学の友人たちが羽振りのいい東京の民間企業の内定を5つも6つももらっている中、どうしてわざわざ田舎で教員なんかするのかわからなかった。3校目の赴任地が大島高校、6校目の赴任地が喜界高校だった。喜界島にある先祖のお墓参りを繰り返すうちに、自分のルーツを初めて強く意識するようになった。「大島高校(母校)、喜界高校(父

の母校)で両親がどんな思いで勉強していたかを想像しながら仕事をしなさい。そして今を生きる島の高校生たちをよろしく頼む」と先祖から言われている気がした。自分のルーツを意識することが、自分の仕事にやりがいや誇りを持たせることをこの時初めて知った。



エイサー (体育祭)

8校目の赴任地として、与論高校に赴任した。喜界島の先祖の知り合いに、与論出身の方がいたらいいのかもしれない。その先人たちの想いに応えられるよう、職員とともに日々生徒たちと格闘している。

《編集後記》

去る八月二十五日に本町の議会議員選挙があり、十名の定数に十四名が立候補するという激戦だった。選挙の結果は、久しぶりに女性議員が誕生し、現職五名、元職二名、新人三名というバランスの取れた布陣となったが、現職三名が涙を飲む結果となった。

また、改選後の委員会構成で、広報常任委員会のメンバーは次のようになった。
委員長 大田 英勝
副委員長 吉田 剛
委員 遠山 勝也
委員 川内 恵司
委員 吉田 勉
今後、このメンバーで議会便りの編集を行うが、「わたしもひとこと」への応募希望等、お気づきの点があったら、議会事務局まで御一報願いたい。(大田)